

作家の朝比奈あすかさんを特別ゲストに迎えて サピックスキッズが特別教育対談を開催

10月20日(日)、サピックス小学部の晴海校にて、特別教育対談『ななみの海』読書が開く子どもの未来～中学受験頻出作家 朝比奈あすかさんと語る保護者の思い～が開催されました。当日は小学3年生以下のお子さんを持つ保護者の方に向けて、子どもたちが楽しく学ぶことの大切さを伝える講演のほか、『ななみの海』『君たちは今が世界(すべて)』などの著者・朝比奈あすかさんを迎えての特別教育対談が行われました。

大切なのは「楽しみながら学ぶ」こと その経験が学習意欲と学力を高める

この日に行われた特別教育対談では、最初にサピックスキッズ事業部の石垣知子先生が登場。「幼少期、低学年時に大切にしたいこと」と題した講演が行われました。

石垣先生は、「この時期の子どもたちは、遊びに熱中するなかで思考力や語彙力などの学ぶ力を身につけます。その姿勢は中学受験での助けにもなってくれます」と前置きし、担当している小学2年生の授業の様子を紹介しました。

そのクラスでは漢字に夢中な生徒からの発案で、クラス全員で「水をためられる漢字」を考えたそうです。生徒たちが挙げたのは「出」「画」「白」などで、確かにどれも水がたくさんたまりそうな形をしています。「白を挙げてくれたのは、保護者の方から『漢字ってどうやったら覚えられるのでしょうか?』という相談を受けたこともあった生徒でした。このように遊びを交えて学ぶうちに、漢字テストで100点を取って見せてくれるくらい成長してくれたのです」と石垣先生。まさに、学習意欲とともに学力が向上した一例といえます。

最後に石垣先生は、次のようなメッセージを送りました。「熱中しているもの、強みなど、どんなことでもいいので、お子さんのすてきなところを見つけて、認めてあげてください。それは大きな自信になります。そして、保護者の方もお子さんと一緒に学ぶことを楽しんでください」

親子で読書を楽しむことが 国語力を伸ばす一番の方法

続いて行われたのは、作家の朝比奈あすかさんとサピックス教育事業本部部長の広野雅明先生による特別教育対談です。朝比奈さんは「中学受験頻出作家」ともいわれており、2019年に発表された『君たちは今が世界(すべて)』は、開成中、大妻中、海城中など10校以上の入試で取り上げられたことでも話題となりました。朝比奈さんは、「中学の入試問題は、学校からのラブレターだと表現される先生



もいます。そのなかで、『こういう文章を読んでもらいたい』と各校の先生方が思ってくださいました。ありがとうございます」といいます。入試をきっかけに、「続きが読みたい」と、図書館や書店で親子で一緒に探したという話を聞くこともあるそうです。

2022年に発表された『ななみの海』も、城北中、桐光学園中、甲陽学院中などで取り上げられました。この作品は、家族の問題によって児童養護施設から高校に通う少女・ななみの複雑な心模様を繊細に描いた青春小説です。広野先生は、「登場人物の心情や現代社会における課題などを読み取るには、その前提となる経験を積む必要があります。知識を覚えるだけではなく、さまざまな経験から学び、考えることが大事だと思っています」と語りました。

また、最新作『いつか、あの博物館で。—アンドロイドと不気味の谷』が、2025年度から中学の道徳の教科書に掲載されます。これについて、朝比奈さんは「今の中学の道徳では、中1は『アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)』、中2は『アンガーマネジメント(怒りの制御)』を学び、中3では認知機能に着目した包括的支援プログラムのトレーニング

を学ぶそうです。そのほかにも防災や避難所での過ごし方など、時代に即した内容を取り上げていて、とてもおもしろいと思いました」と語りました。

保護者からよく寄せられる「どんな本を読ませれば、読書好きになるのでしょうか」という質問に対しては、「読書は娯楽であってほしいので、子どもに本を『読ませる』ではなく、『読みたい』となるのを待ってもらいたいです。親子で散歩や買い物の帰りに図書館や書店に寄って、親が自分で本を選んでる姿を子どもに見せることで、『本っておもしろそう』と思ってもらえるのではないのでしょうか」と回答。広野先生も、「読書好きなお子さんのご家庭にはいろいろな本があり、保護者の方も自然に活字に親しまれているようです」と述べました。

最後に朝比奈さんは、「中学受験をする6年生の段階で、子どもがみずから努力をしてたどり着いた場所が最もいい場所、という思いを保護者の方が持つこと、そして、親がのめり込みすぎず、塾の先生など専門家に任せることもとても大事だと思います」とメッセージを送りました。

子どもの興味・関心を伸ばす 遊びと学びの融合「遊学」のススメ

最後に、サピックス小学部事業本部部長の溝端宏光先生による特別講演『「遊学」のススメ ～幼少期に『広く』『深く』学ぶ～』が行われました。テーマにある「遊学」は溝端先生による造語で、「遊ぶように学びましょう。そして、遊びのなかでも学びましょう」という意味が込められています。「子どもたちは、楽しいとやってみたくなり、おもしろければとことん熱中します。だから印象に残り、力がつきます」と溝端先生は述べ、その実例として「ことばをさがせ!」ゲームを紹介しました。

この日は『ら』で始まる3文字以上のことばを見つけよう!というお題で考えてみました。溝端先生は「らくだ」「ライト」という例を挙げて、「ことばを覚えるのを面倒に思うお子さん



特別体験授業のご案内

- 日 程 2025年1月12日(日)
※他日程あり。詳細はサピックスキッズのホームページでご確認ください。
- 対 象 新年中生・年長生
※対象のお子さまの生年月日は
年中生は2020年4月2日～2021年4月1日
年長生は2019年4月2日～2020年4月1日となります。
- 開催場所 サピックスキッズ代々木校・豊洲校・お茶の水校
- 受講料 3,300円(税込) ※当日、現金にてお支払いください。
- 持ち物 [お子さま] 上履き、水筒(中身は水かお茶)、ハンカチ
※動きやすい服装でお越しください。
[保護者の方] スリッパ
- 申込方法 電話受付: 03-6276-8603(代々木校)
03-5548-0059(豊洲校)
03-3296-7878(お茶の水校)

もいますが、このような楽しいゲームを通じて覚えることもできます」と述べました。

この日は、講演会場となった教室以外でも、サピックスキッズ、サピックス小学部、ビッグキッズくらぶがブースを出展。保護者の方が「学ぶ楽しさ」「知る喜び」を実感できるコーナーが用意されていました。溝端先生は、「ぜひ、ブースにも参加して、『楽しい』『おもしろい』と感じるのはどういったときかを実感していただきたいと思います。その感覚があれば、ご家庭でどのような取り組みが有効かわかるようになります」と説明。実際に講演終了後には多くの方がブースを訪れていました。

著作紹介



『いつか、あの博物館で。』
アンドロイドと不気味の谷
朝比奈あすか 著 東京書籍刊
1,650円(税込)

ロボット博物館への校外学習で同じ行動班になった男女4人。その博物館には「美しすぎる」アンドロイドの気象予報士が展示されていた。その日の体験をきっかけに、それぞれがロボットと人間の違いを考える、中学生たちの群像劇。不思議な縁でつながった、性格や家庭環境の異なる4人の中1から中3までの3年間を、それぞれの視点で描きます。



『ななみの海』
朝比奈あすか 著 双葉社刊
1,760円(税込)

児童養護施設で暮らす高校生のななみは、医学部進学をめざして受験勉強に励んでいる。部活の発表会、進学費用のためのアルバイトなど、密度の高い高校生活を送るなか、ななみは自分の意志で選択した道とは――。「教育に十分にお金を注いでもらえない子どもの存在を知ってほしい」という著者の思いから生まれた作品です。